

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	歯周病検診
担当課・団体	健康づくり推進課
基本方針	健康長寿世界—につながる食育の推進
基本施策	(7)豊かな生活や暮らしの実践
数値目標	(10)定期的に歯科健診を受診している市民の割合を60%以上にする
取組概要	勤務先などで検診を受ける機会がない40歳以上の方を対象に歯周病検診を実施
取組目的	勤務先などで検診を受ける機会がない40歳以上の方に歯周病検診を受けてもらう
現状・課題	(現状) 平成29年度から40歳を対象に歯ピカ検診(無料の歯周病検診+歯のクリーニング)を実施している。 (課題) 平成30年度は前年度と比較して歯ピカ検診の受診者数が減少したため、幅広い周知活動が必要と考える。

令和5年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)

目標	令和5年度目標	(学習目標)歯周病検診を実施することで、自身の口腔内状況を把握してもらう。 (行動目標)歯周病検診の受診者数を増加させる。 (環境目標)「成人健診まるわかりガイド」を市民全世帯に配布する。歯ピカ検診無料受診券の他に、トリプル健診無料受診券(当該年度に特定健康診査と市の大腸がん検診を受診した方を対象)を送付する。 (結果評価)歯周病検診を通じて、定期的な歯科健診の受診を促す。
	令和5年度結果目標	定期的に歯科検診を受診している市民の割合を60%以上にする
令和5年度の取組方針		歯ピカ検診無料受診券やトリプル健診無料受診券をするほか、特定健診やがん検診等と同時に歯周病検診が受けられる環境を整備することで、受診者数の更なる拡大を図る。
取組内容(予定)		・検診周知の実施 ・歯ピカ検診無料受診券やトリプル健診無料受診券の送付

評価	令和5年度評価	企画評価	事業周知及び実施について概ね達成できた	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画どおり実施できた
			②参加者は内容を理解し満足したか	歯科健診後の歯科衛生士による歯科保健指導により理解し満足できていると考えられる
			③課題や改善点	受診実績により市民のニーズを把握し歯科検診のクリーニングについて見直しを行った
		影響評価	学習目標が達成されたか	歯科専門職による歯科健診実施により達成できた
			行動目標が達成されたか	概ね前年度と同等の受診者数
	環境目標が達成されたか		事業周知及び歯科健診を受けやすい環境整備等達成できた	
結果評価		達成済み		
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】 受診者数の増加及び歯科健診を受けやすい環境ともに概ね達成済み		

投入コスト	予算額	11,318千円	決算額	9,083千円						
対象者(●は該当、○は保護者)	0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
						●	●	●	●	

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	検診の実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	検診の実施	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	受診者数		1,376人	1,450人	1,460人	1,863人	1,807人	1,521
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	楽しく子育て応援教室
担当課・団体	静岡市食生活改善推進協議会
基本方針	「わ」(和・輪・環)の食育の推進
基本施策	(7)豊かな生活や暮らしの実践
数値目標	(11)毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合を85%以上にする
取組概要	絵本紹介、紙芝居、おやつ作り、食のお話、料理の紹介等
取組目的	子どもと親が食を介して楽しくわかり易く楽しい時間を共有する。家族で共食の時間を持つことの大切さを学ぶ
現状・課題	<p><b>(現状)</b> 主に土曜日、夏休みに事業を実施しているが、参加者の多くは参加してよかったとのコメントをいただくが、参加者が年々少なくなっている</p> <p><b>(課題)</b> 年々児童数も少なくなっていく中、参加してもらうための募集の仕方の検討が必要。また、食に関心の薄い保護者にも参加してもらうための働きかけをどうすればよいのか検討課題である</p>

令和5年度事業計画(第3次静岡市食育推進計画)

目標	令和5年度目標	<p>(学習目標) 子育て世代が食事作りの楽しさを知る (行動目標) 子育て世代が家庭で実践しやすいレシピの提供を行い、親子と一緒に食卓を囲む機会をつくる (環境目標) 親子で参加できる教室の開催数を増やす(自主事業等) (結果目標) 親子で食事を楽しむ機会を増やす</p>
	令和5年度結果目標	未就学児と親の料理講座とともに、放課後子ども教室や児童館などと連携して子供から親へ働きかけをもらう

令和5年度の取組方針	親子で食について楽しく学ぶ機会となるように、ペープサートや紙芝居などを使用して、食べることの楽しさを伝えていく。
取組内容(予定)	14回開催予定

評価	令和5年度評価	企画評価	各地区で年2回ずつ開催予定だったが、子どもが少ない地区もあり、実施計画に少し満たなかったが概ね計画通り実施できた。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	計画には少し満たなかったが13回開催することができた。
			②参加者は内容を理解し満足したか	栄養バランスの他、歯みがき等の重要性や共食の実践意欲などにつなげることができた。
	③課題や改善点		子どもが少ない地区については開催が難しいこともあるが、その分を高齢者対象の教室回数を増やすなどして対応した。	
	影響評価	学習目標が達成されたか	「おやこ食育教室」のテキストを使用し、食育5つの力や共食の重要性などについて伝えることができた。	
		行動目標が達成されたか	簡単にできるレシピの配布により「実践してみたい」という感想をもつ参加者が多かった。	
		環境目標が達成されたか	児童館などの依頼も多く、調理実習ができない場合は、手作りのペープサートやパネルシアターなどの内容で開催し、大変好評であった。	
	結果評価	放課後子ども教室で県の「ふじのくに食育教室」と共同開催し、多くの児童が参加することができた。		
	令和5年度結果評価	<p><b>【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】</b> 児童館、放課後子ども教室など色々な方面からの依頼を受け、参加人数も増加しているため、目標を達成できた。</p>		

投入コスト	予算額		— 千円		決算額		— 千円			
対象者(●は該当、◎は保護者)	0~5歳	6~11歳	12~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	その他(具体的に)
	●◎	●◎	●◎							

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
	計画	食育教室、料理教室の開催	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	食育教室、料理教室の開催	◎実施	◎実施	◎実施 (内容は変更)	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
①	食育教室、料理教室の開催		16回	16回	16回	19回	16回	13回
②								
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	食品ロス削減対策事業
担当課・団体	ごみ減量推進課
基本方針	「わ」（和・輪・環）の食育の推進
基本施策	(8)環境を考えた食生活の実践
数値目標	(12)食品ロス削減のために行動している市民の割合を55%以上にする
取組概要	食品ロス削減への意識を向上させる
取組目的	食品ロス削減への意識を向上させるため、ごみリサイクル展など幅広い対象が集まる機会を捉えて周知を図る
現状・課題	<p>(現状) メディアへの出演、ごみ減量啓発講座などを通じ啓発を実施し、市民の食品ロス削減に対する意識向上を図っている。</p> <p>(課題) 食べ物を残すことがもったいないという意識が薄れている事業者、市民が多く、意識を変革させる取り組みが求められる。</p>

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	<p>(学習目標) 食品ロス削減に向けた意識の醸成を図るために、小・中・高校において出前授業（清掃工場見学時の講義も含む）を実施する。</p> <p>(行動目標) 食品を無駄にしないため、スーパー等における「手前どり」の推奨や、家庭で余ってしまう食品を社会福祉団体等へ寄付する「フードドライブ」への参加を促すことができるイベントやキャンペーンを実施していく。</p> <p>(環境目標) 参加者が、家庭で発生している食品ロスの量を把握し、減量していけるよう「食ロス日記」を実施していく。</p> <p>(結果目標) 事業アンケート等により、「食品ロス削減の取組を意識的にやっている」の回答率80%以上を目指す。</p>
	令和5年度結果目標	家庭可燃ごみに占める食品ロスの割合を2019年度比で1%削減
令和5年度の取組方針		キャンペーンやイベントを通して、食品ロス削減に関する市民の理解が高まってきていると感じる。引き続き、自分事として、食品ロス削減に取り組んでいけるような啓発事業等を実施していく。
取組内容（予定）		各種企業・団体と連携し、食品ロス削減に向けた実践的な取組を実施していく。（出前授業の内容充実、手前どりの推奨、フードドライブの実施、食ロス日記、食ロスクッキング等）

評価	令和5年度評価	企画評価	<p>①出前授業 120回（学校：44回、清掃工場見学：76回）実施</p> <p>②出前授業の一環として、3校において小学生が「てまえどり」啓発POPを作成し、市内セブンイレブン店舗に掲示。さらに、静岡ガス主催イベントでも同POPを作成し、店舗掲示を行った。</p> <p>③フードドライブ啓発 17回実施（市内事業者10回、市内学校7回）</p> <p>④食品ロス削減レシピの募集・SNSを活用したレシピ紹介、クッキング教室の開催</p> <p>⑤食ロス日記の実施。（清水看護専門学校）</p> <p>⑥事業アンケートの「食品ロス削減の取組を意識的にやっている。」の回答率は88%。</p>	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	様々な企業・団体等から協力が得られたことで、当初予定していた実施回数を上回る事ができた。計画通りに実施できたと判断する。
			②参加者は内容を理解し満足したか	事業実施時に行ったアンケート等では、「イベントを通じてごみ減量の意識が高まった」が全体の94%を占めていたことから、参加者の事業理解度等へ高まっていると判断する。
			③課題や改善点	食品ロス削減の理解度・認知度は高まってきているが、より実践しやすい取組等を啓発していく必要があると考える。
		影響評価	学習目標が達成されたか	目標は達成できたと判断する。
行動目標が達成されたか	目標は達成できたと判断する。			
環境目標が達成されたか	目標は達成できたと判断する。			
結果評価	事業アンケートの「食品ロス削減の取組を意識的にやっている。」の回答率は88%であったため、目標を達成できた。			
令和5年度結果評価		【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】すべての目標を達成できたと判断する。		

投入コスト	予算額	233 千円	決算額	38 千円						
対象者（●は該当、◎は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
	◎	●◎	●◎	●	●	●	●	●	●	

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針		充実						
工程	年度	内容	H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
	計画	ごみリサイクル展の開催	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	ごみリサイクル展の開催	◎	◎	×	×	×	○ 既存イベントへの共同 ブース出展という形で 実施。
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度		H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5	
①	小学生へのごみ減量啓発講座での食品ロス啓発機会の確保	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	清掃工場見学（小学校社会科見学）受入時に食品ロス啓発講座を実施	
②	しずおか市消費者協会など他団体との連携による幅広い啓発活動の実施	実行委員会等での連携1回	実行委員会等での連携1回	実行委員会等での連携1回	実行委員会等での連携1回	実行委員会等での連携1回	実行委員会等での連携1回	
③								
④								

第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	地場産物を取り入れた献立の提供
担当課・団体	学校給食課
基本方針	「わ」（和・輪・環）の食育の推進
基本施策	(9)地産地消の推進
数値目標	(13)地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする (15)地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合 35%以上
取組概要	県内食材や地域の食文化を生かした献立を提供する
取組目的	静岡に対する誇りと郷土愛をはぐくみ、地元の食材や料理を伝える機会とする
現状・課題	<b>（現状）</b> 学校給食における地産地消率44.6%（H29の6月・11月のふるさと給食週間の調査） <b>（課題）</b> 農業県でない静岡においてこれ以上地産地消率を伸ばすことは条件的に難しく、維持を目指している

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	(学習目標) 静岡の食べ物を知っている児童生徒の割合72% (行動目標) 地域の地場産物や食文化について話題にしている学校の割合43% (環境目標) ふるさと給食週間における地産地消率40%以上。 (結果目標) 学校給食で使われている地場産物や郷土食について知っている学校（児童生徒）の割合45%
	令和5年度結果目標	食べ物や作ってくれる人への感謝の気持ちを表している学校（児童生徒）の割合 60%
令和5年度取組方針		地場産物を活用した献立を提供し、献立表等で紹介する。
取組内容（予定）		月1回以上の「ふるさと給食の日」や6月・11月の「ふるさと給食週間」に地場産物を使用し、献立表等で紹介する。

評価	令和5年度評価	企画評価	毎月「ふるさと給食」や年2回「ふるさと給食週間」で地場産物を使用した。年間を通じて地場産物を使用した給食の提供を心がけている。	
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	「ふるさと給食の日」「ふるさと給食週間」で地場産物を使用した給食が提供された。
			②参加者は内容を理解し満足したか	地場産物について、献立表や給食だよりに記載し、使用日には給食時間の放送で紹介して理解を深めた。また、給食を食べることで地場産物を食べる体験をした。
	③課題や改善点		食べるだけでなく使用した地場産物を知るためにも、各種お便りやホームページを活用して地場産物を紹介していきたい。	
	影響評価	学習目標が達成されたか	静岡の食べ物を知っている児童生徒の割合72%	
		行動目標が達成されたか	地域の地場産物や食文化について話題にしている学校の割合43%	
		環境目標が達成されたか	ふるさと給食週間における地産地消率40%以上	
結果評価		地場産物について食に関する指導の成果が表れていると思う学校の割合が43%と、目標の40%を超えることが出来た。		
令和5年度結果評価		<b>【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】</b> 学校給食で使われている地場産物や郷土食について知っている学校（児童生徒）の割合 87%		

投入コスト	予算額		— 千円		決算額		— 千円			
	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
対象者（●は該当、○は保護者）		●	●							

平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
	計画	地場産物を活用した献立を提供する。	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	地場産物を活用した献立を提供する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標/年度			H30	R1	R 2	R 3	R 4	R 5
①	ふるさと給食週間の実施		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回
②	ふるさと給食の日		月1回以上	月1回以上	月1回以上	月1回以上	月1回以上	月1回以上
③	わくわく給食の提供			年6回	年6回	年6回	年6回	年5回
④								



平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	イベントの開催	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績		◎	◎	×	×	×	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	イベント開催数		1回	1回	—	—	—	1回
②								
③								
④								



平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	地場産品の販売	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	地場産品の販売	◎実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標／年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①								
②								
③								
④								



平成30～令和5年度の取組の方向性								
方針			継続/見直し・改善					
工 程	年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	計画	農作業体験 料理教室	実施	実施	実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	農作業体験 料理教室	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
評価指標/年度			H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	農作業体験 料理教室		10回	10回	8回	7回	7回	7回
②								
③								
④								





第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票

第3次計画策定時の状況

事業名	お茶の美味しい入れ方教室
担当課・団体	農業政策課
基本方針	「わ」（和・輪・環）の食育の推進
基本施策	(11)食文化の継承
数値目標	(16)茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合を60%以上にする
取組概要	静岡市内の小学5・6年生を対象とした、日本茶インストラクターによるお茶の美味しい入れ方と「お茶のまち静岡市」について学ぶ授業を実施する
取組目的	お茶の入れ方を学ぶことを通じてお茶に対する味覚を育み、お茶を中心とした食育を図るとともに、本市基幹産物であるお茶の啓蒙・消費促進を図る
現状・課題	<p><b>(現状)</b> 平成14年度にスタートし（実施校17校）、平成30年度時点では市内小学校80校で実施した。年度当初に実施意向調査を行い、希望する小学校に対して事業を実施する。</p> <p><b>(課題)</b> 授業のカリキュラムの関係で時間が取れず、実施できない小学校が多数ある。</p>

令和5年度事業計画（第3次静岡市食育推進計画）

目標	令和5年度目標	<p>（学習目標）授業を受けた児童及び保護者がお茶の美味しい入れ方と静岡市の歴史や文化を理解する。</p> <p>（行動目標）授業を受けた児童が、お茶に関心を持つことで、家庭でお茶を飲む機会が増える。</p> <p>（環境目標）授業を受けた児童と保護者にとってお茶が親しいものになる。</p> <p>（結果目標）家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量が2,400gになる。</p>
	令和5年度結果目標	家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量が2,400gになる。
令和5年度の取組方針		静岡市内小学校全87校へ希望調査を取り、お茶の美味しい入れ方教室を希望するすべての市内小学校で実施。
取組内容（予定）		日本茶インストラクターを講師として派遣し、実施希望のあった学校でお茶の美味しい入れ方教室を実施する。

評価	令和5年度評価	企画評価		各学校からの実施内容の意向を、受託者である日本茶インストラクター協会と協議し、事業を実施できた。
		経過評価	①事業が計画どおりに実施されたか	実施意向調査を行い、希望する市内小学校（66校）に対して事業を実施した。
			②参加者は内容を理解し満足したか	教師用、保護者用のアンケートの回答の結果、満足しているとの回答が多かった。
			③課題や改善点	満足度を数値化して統計できるアンケートの作成。
	影響評価	学習目標が達成されたか	多くの児童が静岡市のお茶について興味・関心を示しており、授業内での質問が多数あったことから、お茶の美味しい入れ方や静岡市の歴史・文化を理解しようとする機運を高めることができた。	
行動目標が達成されたか		授業を受けた全4,158人の児童に、復習用の一煎パックを渡すことにより、家庭でお茶を入れる機会を創出することができた。		
環境目標が達成されたか		復習用の一煎パックを用いて家庭でお茶を入れる機会を創出することで、児童と保護者がお茶に親しみを感じる一助とすることができた。		
		結果評価	家計調査において、二人以上の世帯における茶葉購入量は1,217gであり、目標を下回った。	
		令和5年度結果評価	<p>【最終的に達成をねらった目標がどの程度達成できたかを明記してください】</p> <p>茶葉購入量は目標を下回ったが、支出金額は日本一で、単価の高い美味しいお茶を飲む習慣が根付いていると考えられる。お茶の正しい入れ方を学ぶことで、将来的な消費者層の下支えに貢献した。</p>	

投入コスト		予算額		3,137 千円		決算額		2,782 千円		
対象者（●は該当、○は保護者）	0～5歳	6～11歳	12～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	その他(具体的に)
		●	●							

平成30～令和5年度の取組の方向性

方針		継続						
年度	内容	H30	R1	R2	R3	R4	R5	
工程	計画	お茶の美味しい入れ方教室の実施	◎実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
	実績	お茶の美味しい入れ方教室の実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施	◎実施
	凡例	△調査・検討 ○一部実施 ◎実施 ⇒継続 ●実績なし ×中止						
	評価指標／年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5
①	お茶の美味しい入れ方教室の実施	80校	73校	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施	希望のあった小学校での実施	
②								
③								
④								